

企業名： エーザイ

レポート名： 価格創造レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

私は、エーザイの価格創造レポート2021から、この会社の目指す未来が理解できた。具体例を以下に挙げる。まず、○ページの「社員一人ひとりが『知識創造理論』に基づき、創意工夫しながら日常業務を通じて、患者様ニーズを満たすイノベーションの実現に取り組んでいます」という点において、エーザイは今後も自社製品の改善や改革に努めていくだろうという理解ができた。エーザイが主に力を入れて取り組んでいるのは、がんと認知症それぞれに対する薬で、それらは両方とも完治できる薬がまだないため、エーザイはこれからも改革を行い、患者のニーズに答えるよう努めるだろう。また、○ページの「すべてのビジネス活動、業務遂行における基軸として、エーザイネットワーク（ENW）企業内の全社員に向け『エーザイ hhc（human health care）コード』が創刊されました。『エーザイ・イノベーション宣言』の発信から2020年に発表した中期経営計画の『EWAY Future & Beyond』、さらに未来に至るまで、hhc理念の創発から実現に向けた『知識創造理論』に基づくイノベーションの実現への取り組み『エーザイ hhc コード』の創刊です。これらは「hhcの歴史、現在、そして未来が指し示された、エーザイの道標となるものです」とあるように、全社員に向けて、会社の過去、現在、そして未来について多く側面から記し、伝えている。そのため、社員はその道標をなるべく達成できるように取り組むと考えられるので、会社の将来性も理解できる。さらに、○ページにあるように、ヘルスケア産業に起こる環境変化を見据え、新たな中期経営計画「EWAY Future & Beyond」を始動し、「ADUHELMTM」（一般名：アデユカヌマブ*）が世界初のアルツハイマー病治療薬として米国での迅速承認を取得したことから、この成功の兆しのみえる経営計画に乗っ取って目指していく姿が理解できる。さらに、○ページにあるように、中国やベトナムへの進出が現在進行形で行われていることから、今後もグローバル進出にも力を入れていくことがわかる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

まず、外部からの評価として、○ページにあるように、公益社団法人日本フィランソロピー協会より、第18回（2020年度）「企業フィランソロピー大賞」を受賞し、エーザイの企業理念である hhc とその実現に向けた活動が、「人々が幸せに暮らせる社会の実現に向け、従業員が真価を発揮する企業風土と覚悟ある活動」とであると評価された。数ある企業の中で評価されたのは競争優位性があるととらえられる。また、前に記述した通り、エーザイはがんと認知症（特にアルツハイマー型認知症：AD）の治療薬に重きを置いており、それら

の完全な治療薬はいまだなく、また、少子高齢化によってがんや認知症の患者数が増加しているため治療薬の需要は上がる。例えば、「1999年にアルツハイマー型認知症治療剤「アリセプト®」を発売して以来、我々の疾病に対する情報提供活動や集会活動によって、社会全体の認知・理解度が高まり、認知症全般に関する世の中の認識を大きく変えることに寄与してきた」とあるように、エーザイは「アリセプト®」の成功で認知症薬のトップ企業へとなっている。また、エーザイは認知症の新しい診断方法の開発を行ったり、認知症領域において業界屈指の豊富な開発パイプラインを有していたりと競争優位性があるといえる。さらに、「現在取り組んでいる臨床試験から得られる膨大なヒューマンバイオロジーをもとに、AIアルゴリズムなどの様々な解析手法を用いて、エーザイが独自に保有するデータを、創薬に最大限活用します。」とあるように多量の情報を有している。以上にあるように、今後も需要の増えていくであろうがんや認知症の治療において、独自の開発や情報を有しており、さらに外部からも評価されているという点から、エーザイの競争優位性が理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

何度も記したように、エーザイはがんと認知症の治療薬に重きを置いており、それらの需要は上昇している。そして、今後も上がり続けるだろうと予想できることから、競争優位性に持続性があると理解できる。例えば、○ページに「がん遺伝子の変異状況を把握し、患者様一人ひとりに合った治療法を提供していきたいと考えています。」「『レンビマ®』は、多くのがんで第一選択の治療法となっていく。その数多くの臨床試験では、がん患者様の貴重なデータが蓄積しています。当社は、がんをゲノムレベルで診断して、個々のがんの状況を診て最適の治療法を選ぶための情報と、新たな治療法のご提供で社会に貢献していきたい」とあるようにがんの治療薬においても今後も競争優位性が持続すると理解できる。さらに、「次世代認知症治療薬は、当事者様の認知機能悪化の抑制にとどまらず、医療費、介護費用等のコスト抑制や、健康寿命の延長による疾病負荷の軽減につながり、社会に非常に大きな価値をもたらすと考えられています。」とあるように、次世代の治療薬によって社会に貢献できるため将来性を考えてもエーザイの競争優位性は持続すると読み取れる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

まず、全体として、○ページにエーザイは人的資本について「多様な価値観の受容・デジタル人財の採用・育成」と記している。外部からの評価としては、2021年3月に経済産業省が主催する「新・ダイバーシティ経営企業100選」（経済産業大臣表彰）に選定され、特に女性や外国籍の社員など多様な人財の活躍推進、多様なキャリアパスの実現や、働き方・マネジメント改革等の項目で高い評価を得た。また、社員のキャリア形成や活躍の機会提供を志向している企業を表彰することを目的として創設された「プラチナキャリア・アワード」

にて「コロナを契機に始める新しい働き方」を実践している企業を対象とした特別賞を受賞した。このことから、女性であってもキャリアを上げやすく、さらに社員のキャリア形成や活躍の機会提供をしていることから様々なキャリアを形成でき、自身の人的資本の価値向上を達成できると考えた。さらに、エーザイはグローバルに活動するプログラムがあるため、グローバル的な思考を得られ、視野を広くできる。また、○ページに「30代以下の若手マネジメント比率 20%以上：マネジメント層の多様性を一層高め、新たな発想が意思決定に活かされる環境構築を加速します。」とあるように、若手のころから積極的に参加することで新しい知識や経験が得られる。これらのように、多様な個の活躍と、知の探索を加速する働き方改革が行われていることで、社員一人ひとりの個性や強みが経営および日常業務に反映される環境が構築され、自身の人的資本の価値向上を達成できると考えた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

エーザイの価値創造レポート 2021 は、全体的にまとまっており、適宜図やイラストが入っていてわかりやすかったし、将来性についてなど伝えたいことが読み取りやすかった。改善余地としては、治療薬や病気の説明の際に専門用語や医療用語など難しかったり知らなかったりする言葉が多くあり理解に苦しんだため、もう少しわかりやすく説明してもらえると理解しやすくなると感じた。